

## 概要

---

この章では、Cisco Data Center Network Management (DCNM) の監視および管理に使用できるシステム管理機能を取り上げます。

この章では、次の内容について説明します。

- 「イベント」 (P.1-2)
- 「コンポーネント」 (P.1-2)
- 「仮想スイッチ」 (P.1-2)
- 「スイッチド ポート アナライザ (SPAN)」 (P.1-2)
- 「LLDP」 (P.1-2)
- 「デバイス オペレーティング システムの管理」 (P.1-2)
- 「コンフィギュレーション変更管理」 (P.1-3)
- 「コンフィギュレーション配信管理」 (P.1-3)

## イベント

Cisco DCNM のイベント ブラウザと機能固有の [Events] タブを使用すると、最近のステータス イベントを表示および管理できます。イベントには、Cisco DCNM が管理対象デバイスから取得したステータスに関連するシステム メッセージと Cisco DCNM サーバで生成されたメッセージがあります。

## コンポーネント

コンポーネント機能には、選択した管理対象デバイスと Cisco Nexus 7000 シリーズ スイッチの電力消費量で構成されるコンポーネントの情報が表示されます。詳細については、[第 3 章「コンポーネントの使用」](#)を参照してください。

さらに、コンポーネント機能では、Cisco Nexus 1000V シリーズ スイッチなどの仮想スイッチの基本システム パラメータを設定できます。詳細については、[第 4 章「仮想スイッチの管理」](#)を参照してください。

## 仮想スイッチ

Cisco DCNM では、Cisco Nexus 1000V シリーズ スイッチなどの仮想スイッチをネットワーク内で管理したり、その情報を表示したりできます。仮想スイッチの管理には、ドメインやサーバ接続の設定などがあります。

## スイッチド ポート アナライザ (SPAN)

Switched Port Analyzer (SPAN; スイッチド ポート アナライザ) 機能では、Cisco NX-OS デバイスの送信元ポート間のトラフィックを分析します。この分析は、外部のアナライザを SPAN セッションにラフィックに添付して宛先ポートに送信して行われます。SPAN セクションで監視される送信元ポートと宛先ポートは、ローカル デバイス上で設定できます。

## LLDP

Link Layer Discovery Protocol (LLDP) はベンダーに依存しない、単一方向のデバイス ディスカバリ プロトコルです。このプロトコルでは、ネットワーク上の他のデバイスにネットワーク デバイスから固有の情報をアドバタイズできます。このプロトコルはデータリンク レイヤで実行されるため、異なるネットワーク レイヤ プロトコルを実行している 2 つのシステムでも情報を交換できます。LLDP はグローバルにイネーブルにすることも、インターフェイスごとにイネーブルにすることもできます。

## デバイス オペレーティング システムの管理

デバイス OS 管理機能では、Cisco DCNM の管理対象デバイスにインストールされているソフトウェア イメージを管理します。この機能を使用すると、ソフトウェア イメージの詳細を表示したり、1 つ以上の管理対象デバイスに対するソフトウェアのインストール ジョブを作成および管理したり、ソフトウェア イメージを転送してデバイス コンフィギュレーションのバックアップを作成するようにファイル サーバを設定したりできます。

## コンフィギュレーション変更管理

コンフィギュレーション変更管理機能では、管理対象デバイスからのコンフィギュレーションのアーカイブを保存します。この機能を使用すると、アーカイブに保存されているコンフィギュレーションを表示および比較したり、管理対象デバイスで実行コンフィギュレーションを、デバイスで使用可能な任意のアーカイブ済みコンフィギュレーションバージョンにロールバックしたりできます。

## コンフィギュレーション配信管理

コンフィギュレーション配信管理機能では、コンフィギュレーション配信ジョブを作成およびスケジュール設定できます。各ジョブは 1 台以上のデバイスにデバイス コンフィギュレーション コマンドを送信できます。

